

# 愛知県 東栄町トラスト地

# 100年後を夢見て、森の再生を

昨年9月に取得した東栄町トラスト地では、56.68haのうち9%にあたる5haが人工林の皆伐跡地として残されています。その場所を広葉樹林にするため、地元をはじめ名古屋市などの都市部や、佐久間トラスト地のある浜松市からも森再生活動にご参加いただいています。



トラストだよりvol.18表紙と3月7日に撮影された写真との比較です。季節によって全く違いますね。



3月7日の活動に参加された方々

**★作業に参加した方からの感想**  
自然林のところは触らずに、人工林を伐採して植樹した部分は人間の手を少しだけ入れてあげながら自然の森へと誘導していきます。本当に豊かな森になるのは数百年後。結果を見ることはできませんが、未来を夢みて少しずつ森と関わっていきます。傾斜がきつくてたいへんな作業ですが「安全第一、楽しさ第二」でがんばりたいです！

## 東栄町トラスト地のことが地域の広報誌で紹介されました！

東栄町トラスト地で活動のあった前日の3月6日、中日新聞、名古屋市全域折込の環境情報紙「Risa (リサ)」にて「森の守り方」というタイトルで特集記事を掲載していただきました。取材では、トラスト地を案内しながら水源の森の重要性についてお話ししました。Risaのウェブサイト (<https://risa-eco.jp/>) で記事が公開されています。

中日新聞 名古屋市内折込 環境情報紙「Risa (リサ)」 2021年3月号 表紙(左)と2面(右) 記事のQRコードはこちら↓



静岡県浜松市 佐久間トラスト地 通算1000本を伐採した人工林の斜面 (撮影:山路さん)

## 未来に向けて、地元の方々と共に保全活動を

春らしい陽ざしを感じるこの頃、山の雪が解けはじめたり、木々も新芽の準備をしたりと、トラスト地からも春の便りが聞こえて参りました。当財団の活動で大切なのはトラスト地の取得だけではありません。水源の森、生物多様性の森を次世代に残すためには、トラスト地での野生動物等の調査・観察、保全活動も重要です。また、各トラスト地において、その地域の気候や特性に合わせた様々な形での広葉樹林化事業も行っています。そうした事業が実施できるのも、汗を流して関わってくださる地元の方々がいるからです。間伐や植樹を実施したり、植樹された木々のメンテナンス作業を行ったりと、広葉樹林復元や植生回復を進めてくださっています。トラスト地はすべて奥山にありますので、斜面での作業は並大抵のことではありません。こうして熱い志を持って広葉樹林保全・復元に携わってくださっているからこそ、トラスト地を守っているのだと、ご尽力に心より感謝申し上げます。



理事長 米田 真理子

子どもたちの未来のため、全ての生き物のため、生命の源である豊かな森を日本に遺していけるよう、地元の方々と協力しながら使命感をもって活動を進めてまいります。変わらぬご支援ご協力のほどをお願い申し上げます。

クレジットカードでの会費・ご寄附のお振込もできます！

ホームページからお願いします。 会費: <http://okuyamatrust.org/donation/nyukai> ご寄附: <http://okuyamatrust.org/donation/kifu> QRコードはこちら→

トラスト地管理資金等にご協力ください

・ゆうちょ銀行振替口座 00920-4-305993 (口座名) 公益財団法人 奥山保全トラスト

# 静岡県 佐久間トラスト地

## どんなところ？

佐久間トラスト地は、当時NPO法人だった奥山保全トラストが2006年10月25日に取得した静岡県浜松市の山林で、広さは294ha（約89万坪）と、非常に広大。

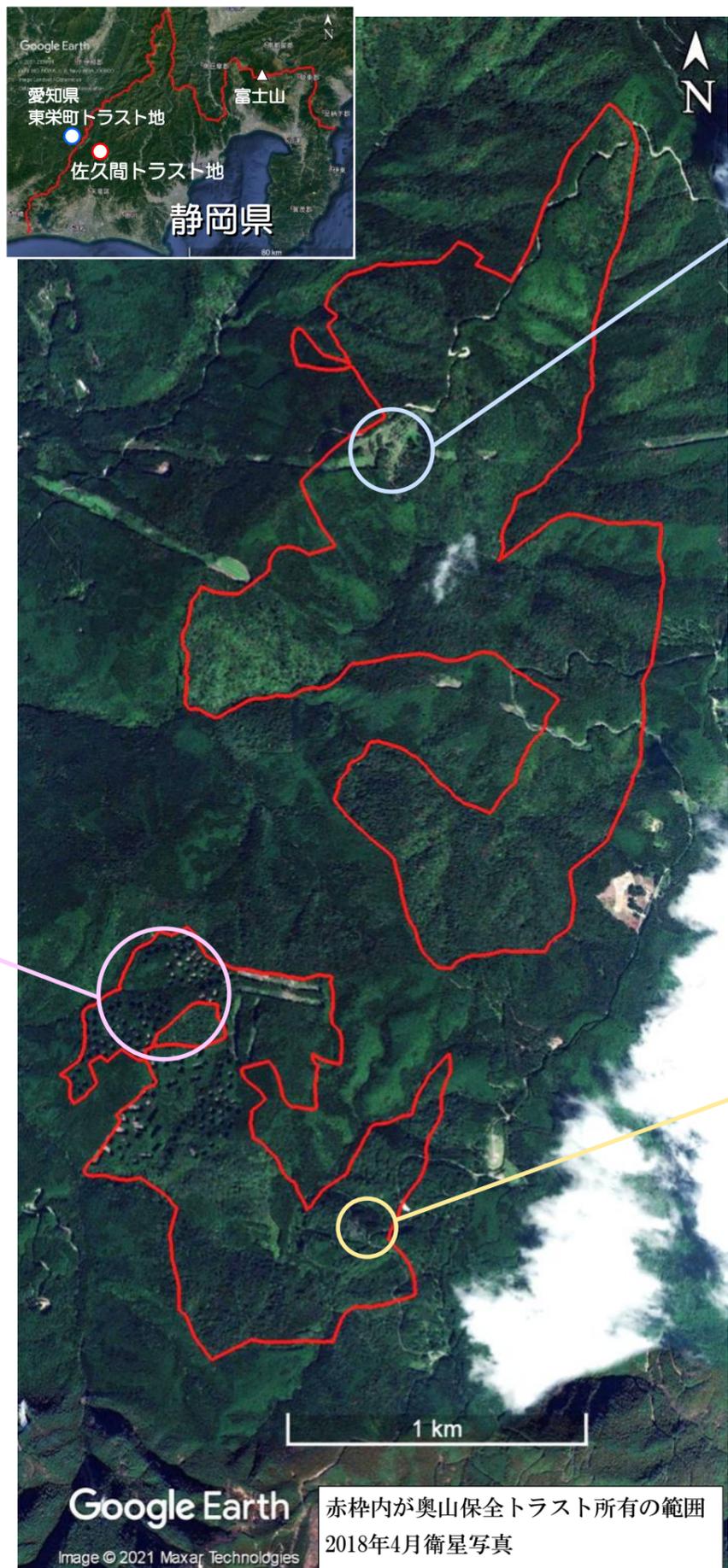
一級河川「天竜川」に注ぐ水源の森であり、取得以降、静岡県の「森の力再生事業」を利用して、地元の森林組合が広葉樹林化を目的とした間伐や、部分的な皆伐を実施。野生動物の生息地の回復や、保水力ある災害に強い森をめざして、スギ・ヒノキを伐採し、広葉樹林復元活動を積極的に行っています。

## テレビ番組に登場



「世界の何だコレ!? ミステリー」フジテレビ系列 2018年3月14日放映  
静岡県の「森の力再生事業」で地元森林組合に小規模な皆伐をしていただいた場所が、衛星写真で見つけた謎のエリアとして取り上げられ、奥山保全トラストの活動が全国区のテレビ放送で紹介されました。

# 祝「ボランティアで」スギ・ヒノキ1000本の伐採を達成!!



赤枠内が奥山保全トラスト所有の範囲  
2018年4月衛星写真



トラスト地の北部は大部分が広葉樹林か雑木林になっていますが、一部に皆伐している場所があり、過去に植樹も行っています。

昨年ぐらいに「あと少しで1000本になるね」と夫と話をしていた頃、庭の手入れでお世話になっていた林業を営む山路さんが作業に加わることで、1日で伐採できる本数が増え、一気に1000本を達成。ここまで10年以上かかりました。その後、自然の森復元に関心がある草野さんや、山路さんと同じく林業を営む海野さんと、次々に力強い仲間が増えました。

今後もこの素晴らしい仲間と共に、多種多様な野生動物たちがつくる水源の森を復元し、彼らが永遠に暮らしていける楽園にするため、励んでいこうと思っています。



表紙の写真の場所を斜面の下側から撮影したものです。切り株を支えにし、伐採したスギ・ヒノキを横倒しにして腐葉土を堆積させることで、土砂の流出や崩落を防止しつつ、斜面を下っていくための足場にする山路さんの工夫がされています。

## ★トラスト地で活躍中の方にインタビュー！

人工林を伐採し、動物たちの棲家となる森づくりに命をかける志村さん

エサ場や住処の森が破壊され、害獣に仕立て上げられた野生動物たち。そんな動物たちが逃げ込み、安全安心を確保できる場所づくりができれば…と長い間、願っていました。色々な方の努力があって、叶えることができています。ありがたい事です。

作業を始めた頃、暗い林床にわずかに生えた草や、土地ならではの小さな木々が太陽の光に照らされた時、ときめいたのを今でも覚えています。



佐久間トラスト地内にある奥山保全トラストの看板に付設されているポスター。野生動物たちとの共存を願う志村さんの想いが伝わってきます。

林業の経験を活かして伐採活動に参加してくださっている山路さん

人口減社会で、林業を続けるのが困難な場所を広葉樹林に戻していくことは、野生動物の保護だけでなく林業の今後の発展にも必要だと思い、活動に参加しています。ツキノワグマなど市街地の出没で騒動の中にいる人たちに、奥山の重要性について少しでも知ってもらいたいと思っています。

佐久間トラスト地では時折、切り株の上にイガ栗が置いてあります。リスなどの小動物は、その上でなら周囲の危険に注意を払いながらではありますが、安心してエサを食べることができます。彼らのフンが山の土を肥やし、地面を走り回ることによって耕され、落ち葉がかき回されることで空気も混ざり合います。そしてリスなどを捕食する、キツネやテンなどの小型の肉食動物も現れ、豊かな生態系が育まれていきます。佐久間トラスト地は、そういった自然の営みを人間が少しだけ後押しして、そのことを実感できる貴重な場所だと思います。今後も生態系保全に向けての活動を実施していきたいです。

自然の森が再生しつつある佐久間トラスト地。志村さん、山路さんをはじめ、地元森林組合の方々やたくさんの方のご支援があって広葉樹林復元の活動が継続できています。今後も地元の方々と共に、トラスト地での活動を継続し、水源の森として未来に引き継いでいきたいと思っています。